

第21回 Pitch to the Minister 懇談会 “HIRAI Pitch” 議事概要

1. 開催日時・出席者等

○日時： 平成30年12月19日(水)16:00~17:00

○場所： 中央合同庁舎8号館10階 平井国務大臣室

○Pitchテーマ： AIがもたらす社会とAI人材の育成について

○招へい者： 松尾豊 東京大学大学院 工学系研究科 特任准教授
日本ディープラーニング協会 理事長

○出席者： 平井国務大臣、上山 CSTI 議員、河内次官、幸田内閣府審議官、黒田審議官（科技）、新田参事官（科技）、三輪 CIO（IT）、高田事務局長（宇宙）、大坪次長（健康医療）、八山参事官（IT）、柴崎参事官（IT）、寺井秘書官、西山秘書官、柴山秘書官

2. 松尾特任准教授からの説明

○日本の産業競争力の向上を目指して、「日本ディープラーニング協会」を立ち上げた。この協会では、ディープラーニング(DL)を事業のコアとする企業や有識者が中心となって、産業活用促進や人材育成、提言、国際連携、社会との対話を行っている。

○DL は数十年に一度の技術革新であり社会を大きく変えること、日本はインターネットでは負けたがDLでは負けたくないという考えがあったこと、AIというスーツケースワードに悪貨が良貨を駆逐する懸念があったこと等から、DLの技術を持った人を認定する仕組みが必須と考え、協会を立ち上げた。

○協会の主な活動である人材育成においては、2種類（G検定/E資格）の試験を実施している。G検定はジェネラリスト向けで、DLの基礎知識を有し適切な活動方針を決定して事業応用する能力を持つ人材を認定する。E資格はエンジニア向けで、DLの理論を理解し適切な手法を選択して実装する能力を持つ人材を認定するものである。

○今後の協会の活動として、安定運用、受験者拡大、教科書や書籍の整備、他分野との連携、合格者のコミュニティ、事例作りやビジネス活用体系化等に取り組んでいきたいと考えている。

3. 主な質疑応答・議論

○現在のDLは人間がやっている作業を置き換えているだけで大きな価値を生み出せていないが、今後DLでしかできない新たな付加価値やビジネスモデルと結びつくことで普及して

いく、との意見があった。

○医療画像診断は、人がやることの代替という点では十分活用できる技術レベルになってきている。中国では、病院から大量の画像データを収集し、それに何人も医師が診断名をタグ付けするネットワークが存在している。日本ではテクノロジーの議論が先行しがちであるが、このような労働集約的な作業も重要である、との意見があった。

○自然言語処理は、発展途上ながら DL でだいぶ活用できるレベルになってきている。やがて人間を超えるような自然言語処理が可能になると考えられるが、日本はむしろ、画像認識（バーチャル）と機械・ロボットのようなリアルワールドとの組合せで勝負すべき、との意見があった。

○「食」と「AI」との親和性は高いのではないか、との意見があった。世の中で最も巨大な産業は「食」であり、「食」を束ねたら非常に大きいグローバルなプラットフォームとなると考えられる。日本は、ジャンルを問わず「食」のレベルが非常に高く、例えば調理ロボット用のレシピ配信等、日本の外食産業がグローバルに新規ビジネスを展開するのでは、というアイデアが提示された。

（了）

（速報のため事後修正の可能性あり）